

2019（令和元）年度 東北福祉大学通信教育部 スクーリング・アンケート自由記述（抜粋）

紙面の関係でごく一部のみしか掲載できませんでした。

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

（目次）	共通基礎科目・その他の選択科目	p. 1
	社会福祉士指定科目	p. 5
	精神保健福祉士指定科目	p. 9
	心理系専門科目	p. 12
	幼保特例講座科目	p. 15
	オンデマンド・スクーリング開講科目	p. 16

共通基礎科目・その他の選択科目

●禅のころ

- ・坐禅体験がとても有意義なものでした。自分の心を律する難しさ。人間ゆえに楽な方に流されがちな日常のなかで、自分の心と向き合う貴重な体験をすることができ、心のあり方を考えさせられたスクーリングでした。

●ボランティア論

- ・ボランティアを知るためには、福祉・教育・環境など幅広く背景を理解しておくべきだということがわかりました。事例が盛りだくさんで、ソーシャルワークの役割もわかってきました。

●科学的な見方・考え方

- ・学生の成長を信じて講義してくれる姿勢にモチベーションがあがりました。単にレポートの書き方ではない、根拠を基に論じることの意味がよくわかりました。

●基礎演習

- ・レジュメを作ることで、作り方だけでなくまわりの方のたくさんの意見をきくことができた。また、レポートの書き方を含め、多くの知識を得、幅広く学ぶことができ、友人もできて本当によかった。

●情報処理の基礎

- ・先生が丁寧に教えてくださり、また、周りの人からも教えられたり教えたりと、コミュニケーションのきっかけ作りにもなりました。毎日使用しているワードやエクセルですが、初めて知った機能があり、勉強になりました。

●データ分析とプレゼンテーション技法

- ・データの分析がこんなにも面白いものだとは思いませんでした。教科書で予習していたときにはわからなかったことがスクーリングでよく理解できました。さっそく仕事でも活用したいと思います。

●教育の歴史と思想／人間と教育

- ・西洋と日本では教育だけでなく子ども観なども違うことがわかり、驚いた。先生から大事なキーワードを語源から説明していただいたので印象に残ったし、見えにくい意味も捉えることができおもしろかった。

●人権と福祉

- ・優生思想を頭から否定するのではなく、その「差別」や「偏見」はどういう中身でどこからきているのかを考える。また、自分自身のなかにあるアンコンシャス・バイアスにも気付くことが大切だなあと感じました。考えること、悩むこと、語り合うことができたスクーリングでした。

●社会福祉学入門

- ・社会福祉学の基礎から学ぶことができました。社会福祉の枠組みや、どのように行われてきたのか理解ができ、知識が植え付けられたように思います。

●歴史を読み解く

- ・スライドでその時代の風刺画が出てきたのでイメージがつかみやすかった。20歳以前の学生時代に学んだことが時を経て、今は違う表現となっている事柄を学ぶことができ、より歴史に対する理解を深められた。

●コミュニケーション英語

- ・多読の効果を教えていただき、実践したいです。日本とアメリカのコミュニケーションの違いにとっても関心を持ちました。

●睡眠改善学

- ・睡眠という誰もが一度は悩んだことがあるであろうテーマについて、年代・季節を含む

環境などによってどう変化するのかを学び、自分・家族の睡眠を見直すことができたのでよかった。

●知的障害者福祉論

- ・知的障害者のことをあまり知る機会がなかったが、講義を通して実態（就労、生活等）がわかり、深刻であったことを知り、ますます障害福祉に関して学習意欲がわきました。

●発達障害者の理解と支援

- ・発達障害の困りごとが起きる場面について事細かに例示していただいて、納得や新しい発見の連続でした。

●ケアマネジメント論

- ・ケアマネジメントについての知識を高齢者のケアマネジメントだけでなく、障がい者のケアマネジメントの視点からも考えることができたのが、とても勉強になった。

●NPO論

- ・NPOの成り立ちや制度上の話だけでなく、NPOを立ち上げる際の思いや目的のところまで掘り下げ、動画でも深く学ぶことができました。

●リハビリテーション論

- ・リハビリテーションは単にその人の機能回復だけを目的とすることではなく、本人がどのような生活をしたいのか、何をできるようにしたいのか、生活全体を見据えた総合的な支援が重要であると考えさせられた。

●家族法

- ・テキストのどこのページを行っているのか、わかりやすく説明していただきました。AIDや代理母についての問題点など、さまざまな観点からみななければいけないことに気付かされました。とかく男性としての立場でみがちでしたが、女性や子どもの立場で考えることが重要であると改めて思いました。

●社会福祉法制

- ・ポイントをおさえながら解説していただき、今までの学習のおさらいや復習になり、よかったです。先生の経験や事例から講義と結びつけるのは、面白くわかりやすく、まさに「楽力」につながる学びの原動力となり、それを体現している先生がすごいと思いました。

●特講・社会福祉学 1 介護保険と社会福祉士の課題

- ・先生の実践を通しての気付き、工夫、学びを交ぜながらの講義内容は、ソーシャルワーカーの在り方について学ぶことができた。多様な変化に対応していくためにも、問いかけや、腑に落ちる感覚を大切にしたいと思いました。

●特講・社会福祉学 10(スクール・ソーシャルワーク論)

- ・スクールソーシャルワーカーと教員、カウンセラー、それぞれの役割の違いについて、理解を深めることができた。環境への働きかけを行うことができるのは、スクールソーシャルワーカーだけであるということを鑑みると、そのような役割をしっかりと果たせるソーシャルワーカーにならなければいけないのだと強く感じた。子ども・家庭の領域でソーシャルワーカーとしてかかわれるように、当事者の方々が抱える困難さとその背景に、向き合っていきたい。

●特講・社会福祉学 20 (コミュニティ・ソーシャルワークⅡ)

- ・3人の先生方の話を伺うことができ本当に至福の時間でした。また、グループワークを通し、沢山のことに気付き、深めることができました。多様な仲間と多様な視点で新しい気付きを見つけていきたいです。

●特講 (地域と生活)

- ・現在多くの方が考える福祉と、その地域において長く続いていた文化や生活のなかにおける考えや知恵などは、必ずしも一致しないところがあると感じた。そのなかで、どのように外からかかわれるか、考える必要があると思った。

●特講 (3.11 以降の社会を考える)

- ・世の中に発信されている情報と事実とのずれがあることや、当事者の思いや考えを知ることができて良かった。ひとつの出来事でも主観的な見方によってさまざまな捉え方があることを再認識させられるスクーリングだった。

社会福祉士指定科目

●社会福祉原論（職業指導も含む）

- ・言葉の持つ怖さや、同じ言葉でも意味あいや人によって感じ方が異なりそれをどう使用するかが大切だと学びました。支援する側のかかわり方ひとつで、その人の人生に大きく影響を与えてしまうことの責任と重みを、改めて心に落とし込めた授業でした。

●地域福祉論

- ・地域福祉とは、地域とは、自分の生活とは、自分の仕事とは、を常に考えながら照らし合わせながら聞くことができ、今後のさまざまな可能性を考える時間であった。事例がたくさんあってわかりやすく、想像をしやすいあつという間の3日間の講義でした。

●社会保障論

- ・一つひとつの制度を自分の立場に置き換えて考えて理解をしてくださいというアドバイスが、社会保障を身近にする勉強の仕方だと痛感し納得しました。学習したことを関連付けながら生活をしていきたいと思いました。

●公的扶助論

- ・講義資料が最新情報もまとめられていて、とてもわかりやすいです（国試対策にも活用させていただきます）。事例や最近のニュースの事などを通し、生活保護の現状と課題が理解できた。

●福祉法学

- ・難しい法律の内容を身近な具体例を提示したあとに説明していただけたのでイメージがしやすくわかりやすかったです。重要な箇所を何度も確認していただけたので復習するポイントがつかめました。

●福祉社会学

- ・福祉社会学はとても範囲が広くすべてを一度で理解するのは難しい。ただ広く社会福祉を理解するためには、理論の理解を深める必要があると考えました。

●福祉心理学

- ・「認知症」の問題行動には、それぞれ意味がある。その行動をやめさせるのではなく、受け止め満たしてあげる方向にもっていくことが大事ということに納得しました。子育てに応用できることも多数あり役立ちました。

●医学一般／人体の構造と及び疾病

- ・難しい分野だと思っていましたが、先生の説明がポイントを押さえていたのでよかったです。医療分野にも関心もてるようになりました。仕事でも使えるようにしたい。

●福祉行財政と福祉計画／福祉計画法

- ・教科書を読んでも理解できなかったが、先生がレジюмеでポイントをわかりやすく整理して説明してくださったので、用語や重要な点について理解することができた。国や地方の行財政は生活して行くうえで、とても大事なことなので、今後はより関心をもって新聞記事やニュースを見るようにしたい。

●障害者福祉論

- ・実際に横山先生が普段使用している装具や片手でもしめられるネクタイなど、身近なものを見せていただいたことにより、具体的なストレングスを使った動作や工夫を知ることができた。

●保健医療サービス論

- ・内容がもりだくさんで教科書を読んでも理解できなかったが、レジюмеでは覚えなければならぬポイントが整理されていたので、わかりやすかった。診察報酬制度や医療機関の機能と役割や医療保険制度など、興味深い内容が多く、福祉現場での支援において基礎知識としてとても大切だと感じた。また、実生活でも役立つ科目だと感じた。

●社会福祉援助技術総論

- ・総論ということで、再確認になりました。特に相談援助をする姿勢としてクライアントの持っている力を発揮してもらうように導くことの重要性を知りました。また、個人のサービス支援に主眼がいつてしまう傾向にありますが、社会という視点マクロレベルをもつことの重要性を学びました。

●社会福祉援助技術論A

- ・当事者と第一線で関わり続けていらっしゃる先生ならではの説得力。専門性とは何か、援助とは何か、深く考えさせられる講義で、胸が震えました。社会福祉を一生かけて学んでいこうと思いました。

●社会福祉援助技術論B

- ・実際に起きた事例をたくさんお話していただき、そのなかで起きたことをソーシャルワークテキストやレジюме（学習ノート）にあてはめて話をすすめてくださったので、生きた支援の実践として、とても記憶に残るものが多かったです。

●社会調査の基礎／社会福祉援助技術論Ⅱ

- ・今まで自身が仕事で行っていた実態調査やアンケートの意義を深く掘り下げることができた講義でした。ぼんやりと理解していたことをはっきりと言語化されて頭がすっきりとした感覚です。特に他者の合理性、深く納得です。今後活かしていきます。

●福祉経営論／福祉施設管理論

- ・福祉サービスで働く上での注意点について経営者側の考え方を学べた。

●高齢者福祉論

- ・「人は生まれてから亡くなるまで生涯にわたり発達していく」この言葉がとても印象的でした。人はある年齢から衰えていくもの、という思い込みがどこかにあり、そういう支援を今までしていたのかも知れません。この言葉によって、今後の支援方法や自分の行動が変わっていきそうです。

●介護概論

- ・介護の職に就く人もそうでない人も、知っておいたほうが良い情報ばかりで、とても身になった。自分の家族や親戚などがもし介護が必要になったとしても、今日学んだことはとても活かせると感じた。初心者にもとてもわかりやすい講義だった。

●児童（・家庭）福祉論

- ・図や表、専門用語の解説、パワーポイント資料と併用の説明、とてもわかりやすかったです。長い講義時間のなかにビデオの時間をとってくださり、内容も深く、考えることも多くありました。

●更生保護制度論

- ・私にとってはとても難しい内容の科目でしたが、非常にわかりやすく、ときにはユーモアを交えながら解説して下さったので、最後まで新鮮な気持で楽しく受講できました。

●就労支援サービス論

- ・弱みを無理に強化するのではなく、強みをのばす支援が重要であることが理解できました。

●社会福祉援助技術演習A・I

- ・グループワークでさまざまな着目点からの話がきけて、おもしろかった。自分の考えをもちつつ他者の意見を聞き、尊重しまとめるのは改めて大変だなあと感じた。

●社会福祉援助技術演習B・II

- ・言葉をただ知っている段階では意味がなく、それを説明できてはじめて知識といえるということを実感した。現場で働く人間として、実践するためにも基礎学力をつけることはとても重要であると同時に、常に学び続ける姿勢が大事だと感じた。

●社会福祉援助技術演習C

- ・支援を考えるとときにないものに目が行き勝ちだが、今ある資源を広げていく視点も大切であることを学んだ。

●社会福祉援助技術実習指導A

- ・今後実習に行く前の準備を、具体的にどのようにしていくべきかを教わった。法律の調べ方や効果的なツールもたくさん示していただいたので、とても参考になる。

●社会福祉援助技術実習指導B-1+演習C-1

- ・ひとつの事例に対して、教員や学生など人の数だけ考え方や視点が違うということを実感し、それはおもしろいことだと感じた。

●社福実習指導B-2

- ・話がわかりやすく、言葉の一つひとつが自分にとって必要なことだと感じた。実習に向けて、改めてもっと実習先について学ばなければと考えさせられた。

●社会福祉援助技術実習指導B-3+演習C-2

- ・グループワークを通して学生同士の意見を深く知ることができた。発表の機会が多くあったので、自分の考えを言語化してさらに理解を深めることができた。

精神保健福祉士指定科目

●精神保健学

- ・患者にどのようなケアをするのが適切かをグループワークで話し合ったことが印象に残った。同じ症状に対してもさまざまなケアの仕方があり、使い分けていくことが大切だと思った。

●精神医学／精神疾患とその治療 1

- ・各疾患についての症状、治療方法などに加え、精神障がい者を支援していく上で、PSWとして重要となる視点などについても話があり、PSWの専門性についても考える機会となった。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅰ／精神保健福祉援助技術総論

- ・ところどころに織り交ぜられる先生の考えや経験、例え話に、ハッとさせられたり共感したり。またもっと具体的に調べてみたいと思いました。個人的にはそうした脱線？話がとても好きです。好きな理念を見つけるのも大事、などちょっと添えられる言葉が印象に残りました。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

- ・すべて実践における必要な知識で、スライドもわかりやすかった。資料も、量的にも時間に合っていて、復習する際にも役立ちそうです。

●精神保健福祉援助技術各論

- ・テキストに沿って重要点の説明を進めてもらい、頭に入りやすかったです。またグループでのロールプレイも実際の気持ちの動きを感じることができよかったです。

●精神保健福祉の理論／精神保健福祉論Ⅰ

- ・コマごとに各学生の意見を聴き取る機会を設けられたことが素晴らしいと感じた。心底から授業に参加しているという実感が得られた。

●精神科リハビリテーション学

- ・精神科リハビリテーションは「精神障がいのある人が人間らしく生きる権利を回復すること」であり、とても深い意味のある大切なことだと思った。支援者の立場や言動は、本人主体の適切な支援を行うという軸がしっかりしていなければならないと思った。

●精神保健福祉のサービス／精神保健福祉論Ⅱ

- ・法制度について、これまでイマイチ理解できていなかった時系列での経緯が理解できてよかった。受験を考えている方は大変参考になったと思う。

●精神保健福祉の制度／精神保健福祉論Ⅲ

- ・わかりやすく、しっかりまとめられて授業が進んでいくので、理解することができました。障害者と一般の人とが幼い頃から、交ざり合い、認め合い、助け合って楽しく暮らしていける世の中になってほしいと、このスクーリングを受講してさらにそう思いました。

●精神障害者の生活支援システム

- ・先生の豊富な経験によるお話、国内だけでなく国外のようす、状況が大変興味深かったです。

●精神保健福祉援助演習A

- ・対話することは、自分を知る手段であること、相手を感じたことを言葉にして伝え返してくれることで、気付いてなかった自分の幸福のキーワードを知ることができ、専門職としての対人援助に何が大切なのか知ることができた。

●精神保健福祉援助演習B

- ・ロールプレイを通して、精神科ソーシャルワークの初回面接の事例など、相談者とソーシャルワーカー、家族の視点について学ぶことができた。

●精神保健福祉援助演習B-1+実習指導A-1

- ・今までは知識中心の学びだったが、今回のスクーリングで技術として身につけていくための一歩だと感じ、今後の実習にいかしていきたいと思った。

●精神保健福祉援助演習B-2+実習指導A-2

- ・実際の現場での経験などをお話しいただけたことで、医療機関での実習への不安が少し減り、実習に向けてどういった点で学びを深めたらいいのか目安ができた。また実習記録を交換して読むことができ、次の実習に活かせたらいいなと思った。

●精神保健福祉援助演習C

- ・さまざまな現場で働かれている学生さんと交流ができ、生の声を聞いたのが新鮮でした。皆さんがそれぞれの目的をもって演習に参加されているため、自分自身の目標意識を高めることができました。仲間づくり貴重だと思いました。講師の先生は知識が多く、学ぶことができて良かったと思います。

●**精神保健福祉援助演習 C-1 + 実習指導 B-1**

- ・ ロールプレイはいろんな気付きがありました。抽象化、具体化は難しいけれど「意識して」努力しながら行動したいと思いました。

●**精神保健福祉援助演習 C-2 + 実習指導 B-2**

- ・ グループワークを通して、実習で個別の体験から得た、皆さんの知見を共有させていただき、自分の実習体験に肉づけされて、考えや思い、知識が深まり、良い PSW になりたいと改めて思った。

心理系専門科目

●心理学概論A・B／心理学概論

- ・ある視点でものを見始めると、そこから抜け出せなくなり、事実ではないことも、脳が勝手に判断してしまうことがある。人間にとって思い込みは怖い。何かにぶつかったとき、一度踏みとどまり、一步下がって考えてみる。考え方や視点を変えようと思うきっかけとなりました。

●心理学実験I A・B／心理学実験I

- ・触2点閾やミュラー・リヤー錯視の実験は、教科書で読んだだけではよくわからなかった。実際に実験器具を使って実験することができとてもよかった。スクーリングが必須である意味がわかった。

●心理学実験II

- ・スクーリングでなければ体験することができないような実験内容で、とてもよかった。

●心理学研究法I

- ・日常生活で何気なくみせる行動が科学的な根拠に基づいて研究されていることを知りました。自分の行動を振り返って新しい一面を発見するきっかけになる基調な体験であると感じました。

●心理学研究法II

- ・研究論文について、さまざまなことを教えていただきとてもおもしろかった。先行研究の論文の探し方や分析ソフトについても教えもらい、興味が深まりました。

●社会心理学 社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）／社会心理学

- ・ネガティビティ・バイアスの生じる背景として、人類の進化の過程が影響しているという説明に非常に納得をし、関心をもった。

●家族心理学 社会・集団・家族心理学B（家族心理学）／家族心理学

- ・だれでもが基となる家族について、自分の考えや見方が変わりました。また、実際にクライアントやセラピストになって演習することで、今まで面談して相談を受けたときの良かった点、反省点が見えてきました。

●産業・組織心理学

- ・具体例を示されながら理論について講義してくださったので、理解しやすく、産業心理

を身近に感じ、さらに興味をもてました。

●**発達心理学／生涯発達心理学**

- ・DVDを使用していただき理解しやすかった。人の心の「不思議」を論理的に科学的に学ぶことができ、学びが広がり、さまざまなことへ興味がわいてきた。

●**児童青年心理学**

- ・思春期に自己像が確立して困難を乗り越える力は、母親やそれに代わる信頼できる大人の愛着関係があったかどうか大きいということに関心をひかれた。

●**老年心理学A・B／老年心理学**

- ・老年心理学はこれからの日本人が最も学ばなければならない学問であると同時に、これから高齢者とどう付き合うかというメッセージだと思う。

●**教育・学校心理学A（教育心理学）／教育心理学**

- ・障害のある子どもでも支援の仕方によって、その子がもつ無限の可能性を引き出すことができるということが深く心に残りました。「できる」「できない」で決めつけるのではなく、その過程が一番大事であることを学びました。

●**障害者・障害児の心理学**

- ・同じ視覚障害でも、全く見えない人、ルーペで読書が可能な人、見え方が斑な人、とさまざまであることを知った。聴覚は聞きとりだけでなく、意味的理解部分も関係していることも知った。中途失明など突然視覚を失った人たちに対する心的支援も含めて、もっと深く学習したいと思った。

●**感情・人格心理学／人格心理学**

- ・研究を経てできた分類や理論は、実社会（現実）に当てはめることは困難であるが、人格を理解する上での手段として学ぶことで、さまざまな方向からの見方ができ、今後の生活にも人との関わりを友好的なものとし、よりよい人生にもつなげられるようにしたい。

●**臨床心理学概論I／臨床心理学**

- ・講義の進行に応じて、受講者の理解を確認してもらえて学びやすかった。「質問はほかの人のためにもなる」という発言のおかげで、質問を全体でシェアでき、不明な点や疑問を確認しやすかった。

●心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ／心理療法

- ・範囲が広く専門的で難しい内容を、先生がポイントをしばってわかりやすく説明してくださり、とても理解が深まりました。また、先生の長年のご経験から、実際の現場でしか経験することのできない大変リアルティーのあるお話を聞くことができ、充実したスクーリングになりました。

●発達臨床心理学

- ・特性をもった子どもに対していつも“どうして”このような行動をとるのだろうと、そこに気持ちが向いてしまっていたのですが、望ましい行動、望ましくない行動の対応の基本にいまいちど立ち戻り、整理して、自分のなかでも振り回されがちな部分を冷静に見極めていきたいと感ずることができました。

●司法・犯罪心理学

- ・非行少年の気持ちとバックグラウンドとの関係性などが理解できた。自己肯定できることの大切さを実感し、家族でのかかわりに気づきもてた。このような仕事があることを知り、さまざまな社会貢献があると感ずた。わかりやすい授業でした。

●健康・医療心理学

- ・ストレスとコーピングの話がとても印象に残った。状況に応じてコーピングを使い分けることでより効果的だという点がおもしろかった。

●カウンセリングⅠ

- ・キーワードの言葉に潜む、意味づけや重みは、人それぞれだし違いがあって当たり前であることを肯定する態度や、自分の価値観にあてはめることでその人に影響を与えてしまう怖しさなど、カウンセラーの態度、人間観、資質について考えさせられた。

●カウンセリングⅡ

- ・事例がともてわかりやすかったです。プロのカウンセリングの、事例が解決されていく展開がすごい！と目から鱗が落ちる思いでした。

●カウンセリング演習Ⅰ

- ・技法の基本である傾聴の技法（かかわり行動・感情の明確化、反射、要約）など、具体的でわかりやすく、振り返り・復習になりました。また、いろいろな方とグループを組むことができ新鮮でした。

●カウセリング演習Ⅱ

- ・先生の姿勢、口調、態度そのものが肯定的で、否定がなく、安心して表現できる演習でした。具体的に分かりやすいワークをこまめに入れることで、体験的にカウセリングに必要な態度を知ることができました。また、自分自身のくせを知り内省する時間にもなりました。

●学習・言語心理学／学習心理学

- ・典型的条件付けやオペラント条件付けなど、心理学のほかの科目でも学んだ内容をより掘り下げて学ぶことができた。また、用語がたくさんでてきたが、どれも日常に結び付く内容だったので関連付けて考えると理解しやすいと思った。

●神経・生理心理学

- ・心理学というよりは生物学の要素が強く、最初はなかなか理解できませんでしたが、「見る」「聴く」「感じる」といった身近な知覚が、複雑な神経メカニズムを通して行われていることを改めて学び、脳の働きのすごさを痛感しました。

●特講・福祉心理学8（ストレスとつきあう心理学）

- ・普段からストレスに悩んでいましたが、自身の考え方のくせを見つけること、それを変えていくことも必要であることを知り、勇気もてました。

●特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）

- ・事例を通してクライアントの変化をわかりやすく説明してくださいました。

●特講・福祉心理学18（人間関係におけるケアと暴力）

- ・DVに関して研究にもとづいたデータで理解がしやすかったです。社会に働きかけるためには科学的データがいかに大切か、がよく理解できました。

幼保特例講座科目

●乳児保育

- ・グループワークを通して実際に月案を作成してみるなど、まわりの方と意見を交換しながらできたことが良かった。

オンデマンド・スクーリング開講科目

●ボランティア論

- ・対人援助における自己理解の重要性と必要性を改めて認識しました。対象となる方々を尊重しかかわっていけるよう自分を正しく知ることができるよう学んでいきたいと思えます。

●統計情報を見る眼

- ・私は、数学的处理が苦手なため、統計学には近づきたくない印象を持っていましたが、先生が数式を使わず、具体的なお菓子の銘柄などを使って分かりやすく説明して下さいだったので、統計に興味を持つことができました。世の中には統計的な情報に溢れていますのが、今後は鵜呑みにせず、自分なりに情報の真偽を考えながら取り入れて行きたいと思えます。

●法の基礎（日本国憲法を含む）

- ・私たちの日常生活に必要な民法が中心で、常識として知っておくべきことが要約されたとてもいい授業でした。そして法律の重要性を再確認しました。

●社会福祉学入門

- ・利用者と支援者の並列関係では考えさせられた。弱い人を助けてあげるという考え方はすでに対等ではない。今困っている人と、たまたま困っていない自分という関係。ソーシャルワークとは何かを改めて問い直す機会となった。

●社会福祉原論（職業指導を含む）

- ・援助を受ける方と援助をする自分という視点で関わることの脆さを強く感じた。クライアントという用語を「私」に置き換えることでより理解が深まり、より能動的かつ主体的に問題に取り組むべきだという意識が強まった。当事者意識のある学習の重要性を知ることができ、とても有意義な時間となった。

●地域福祉論

- ・私は、津波被災地域に暮らしており、数年間の準備を隔てやっと今年、地区の行政区を立ち上げました。新しい地域での活動やコミュニティ形成をどの様に進めていくべきなのかを模索中でしたが、講義を受講し、地域活動の進め方や福祉コミュニティを造る上での基本的な考え方を学び、これからの地域造りに活かし、誰もがこの地域に暮らすてよかったと思えるような地域造りを目指したいと思えました。

●社会保障論

- ・社会保障という言葉は漠然としてわかりにくいですが、社会保険と社会扶助から成り立っていることがわかった。生活に問題が生じなければ、様々な保障や支援制度について知らずに生活している人がほとんどだと思う。それらの知識があるだけでも何かあった時の救いになると思うので、子どもの頃から学校の授業で取り上げていけばよいと思った。

●公的扶助論

- ・最後の砦としての生活保護が、実際にはその機能を果たせていないという実態を知り、これからも私たちの生活に関わる制度やサービスを改良し充実させていく必要があるのだと感じた。千差万別の生活課題を抱える人に対して、個別性の高い支援をどのように実現していくのが課題だと思った。共に伴走していくために何ができるのかを考えたい。社会がよりよい方向に向かっていけるようにソーシャルワーカーができることは多いのだと思った。

●福祉法学

- ・法律や制度を理解することは難しいが、福祉対象者の権利を守るために理解できるよう努力をしたいと思う。

●福祉心理学

- ・高齢者の生きがいの部分に対して特に興味を持ちました。自分は特別養護老人施設に勤務していてその方の安全あるいみ業務としてのこちら側の都合に合うような行動を求めています。しかしそれだけではなくその人の個人としての生きがいという視点を学ぶ事ができました。

●人体の構造と機能及び疾病／医学一般

- ・医学的見識に基づいて社会福祉領域で重要とされる知識について、分かりやすく解説頂いた。福祉現場で漠然と使用していた知識も専門的裏打ちを持つことができたと感じている。ただ、まだまだ導入部に過ぎないので、今後事自己研鑽に努めていきたい。

●福祉行財政と福祉計画／福祉計画法

- ・福祉行財政のしくみや予算のバランスが理解できたので良かった。自分が住む市町村の福祉行財政を調べたいと思った。

●障害者福祉論

- ・健常者とはいったいどういう人のことを指すのか、考えさせられました。

●保健医療サービス論

- ・診療報酬の見方がわかり、生活に直結することなので、とても助かる知識となりました。

●社会福祉援助技術総論

- ・社会福祉士を目指している以上、社会正義とか相手をそのまま受け入れるなど、常に冷静で心を広く持たなければならぬとそうあるべきと少し考えてしまうところがあったが、支援する側も色々な感情を持つのも当たり前で、持ってこそ相手をよりよく理解することができるという聞き、心が少し軽くなりました。また、地域のことをあまり知らない自分を発見したので、少しずつでも自分の身近な地域に関わっていかうと考えさせられました。

●社会福祉援助技術論 A

- ・誰もが主体的な生き方をするために関わる仕事のすごさを考えました。「人の役に立つ」ではなく、「自分が人になる」勉強をしたように思います。

●社会福祉援助技術論 B

- ・ソーシャルワーカーとしてのあり方を考えさせられた。対象となる方の人生にどれだけ真剣に関わる覚悟があるのかと問われ続けた時間だった。

●社会調査の基礎／社会福祉援助技術論 II

- ・ソーシャルワークにおける社会調査は、福祉的事象の実態把握や問題解明だけでなく、ソーシャルワーク実践の評価という側面もあるのだということを知った。老障介護の論文を通して、調査の分析やその示し方の一例を学ぶことができてよかった。

●福祉経営論／福祉施設管理論

- ・福祉経営の基礎から学ぶことができ、実際に働いている現場ではどのような体制になっているのか知ることができた。

●高齢者福祉論

- ・「老い」とは何か、考えさせられた。
そして、自分が今介護する側にいるため、どんな制度があり、どこへ相談すればよいのか、本当に基本的なことではあるが、勉強になった。

●介護概論

- ・日々の高齢者介護に関わる仕事の中で、自分たちがいかに提供者側に偏ったかわかりを

しているのかを反省させられました。

対象者が本当に望んでいることは何か、今本当に必要なことは何かを常に考えていきたいと思いました。

●更生保護制度論

- ・更生保護制度が効果的に働くためには、公的機関の処遇と、更生を目指す少年を受け入れる私たち地域社会の理解や協力が必要なのだと考え、今自分にできることを考え活動したいと思った。

●就労支援サービス論

- ・「障害者の就労」を考えると、世の中で働く人全ての労働問題と地続きであり、誰にとっても働きやすい環境を整えることが大事だと思いました。
そもそも「働く」こととは何だろうということから考えられて良かったです。

●精神保健福祉の制度／精神保健福祉論Ⅲ

- ・それぞれの入院形態のポイントがわかった。医療観察制度は複雑であると感じていたが、講義を聞いて制度の仕組みを理解できた。

●精神保健学

- ・精神保健について広く歴史や現在の状況を講義で聞くことができ、ひきこもりや産業保健についてなど大変勉強になりました。

●精神科リハビリテーション学

- ・精神科リハビリテーションが障害者にとって生きるための必要不可欠であることを実感しました。

●発達障害者の地域支援

- ・受容・共感・交流のところでありのままに接することで共感が得られることが交流がうまれることがわかりました。

●家族法

- ・被虐待児の救済について法的視点を深められました。

●心理学概論 A・B／心理学概論

- ・自分の中で常識と言う色眼鏡を通して見ているということを考えさせられた。

●心理学研究法 I

- ・病院で看護師の仕事をしているので、面接法等の手順と留意点の部分を読んだ時、実際患者との関わりの時に注意しなければいけないと感じた。心理学講義の中だけでなく普段の生活で何気なくしていることは多いのだと考えさせられた。

●社会・集団・家族心理学 A / 社会心理学

- ・対人認知は、いつでも正しいわけではなく、様々な要素によって歪みが生じていることが分かった。その歪みは必要なものもあれば、危険性を孕んだものもあるので、本講義の内容を参考にしながら、どう付き合っていくかを考えたいと思った。

●人間関係論

- ・人間関係をゆがめる認知バイアスに関しては、日常生活で実際におきていることであり、人間関係を維持していく上では大切なことだと思いました。

●老年心理学 A・B / 老年心理学

- ・知的障がい、発達障がいなどの障害を持つ方が、高齢になったときにどのような身体的変化があるのかについて興味を持っていたので先生の講義をきくなかでどのように今後知識を深めていったらいいかの手がかりをつかむことが出来た。

●ライフサイクルと福祉心理学

- ・とても興味深いスクーリングでした。欧米と東洋の思想の違いを聞いて、なぜ日本人は、私は、こういう行動をとるのが理解できたように思います。

●心理的アセスメント I / 心理アセスメント

- ・援助者の基本的な態度や心理テストに対する基本的な理解が得られた。

●発達心理学 / 生涯発達心理学

- ・人の発達過程における出来事などそして、問題や課題など改めて自分の生きてきた人生と照らし合わせて聞くことができてもう少し早く講義を聞いておけばと反省しました。

●児童青年心理学

- ・キャリアンカーがおもしろかったのと、講義の合間に先生がおすすめの本紹介参考になりました。

●産業・組織心理学

- ・組織において、今までどのような人がリーダーに向いているのかと、リーダーになる人

物にだけ焦点を当てていたが、今回のスクーリングで、周囲の状況によっても適性的なリーダーとそうでないリーダーがいることを知れました。